

絶えることのない神の愛

ホセア書 14 章

わたしは彼らのそむきをいやし、喜んでこれを愛する。わたしの怒りは彼らを離れ去ったからである。(4)

このホセアの言葉は、イスラエルの滅びが決定的となった時に語られたものです。このような事態に至つては、もはやどこにも望みを見いだせなくなつたように思われました。

ところがホセアは、今この時にこそ回復の約束を語りました。ホセアはまず悔い改めを勧めます。「イスラエルよ、あなたの神、主に帰れ」(1)。4 節以下は、主なる神がイスラエルの民に与えてくださる回復の恵みが語られています。「わたしは彼らのそむきをいやし、喜んでこれを愛する」。ここに「喜んで」とあるのは、イスラエルの民が悔い改めるので、それと引き換えに愛してあげる、というようなものではないということです。民の悔い改めに先立つて、民に対する神の愛は抑えられないほどにほとばしり出る様子を表しています。神は神の民を愛することをやめることが出来ないお方なのです。神がこのような愛のお方であることが分かるからこそ、わたしたちはたとえどのような状態に陥つたとしても、神のもとに帰ることができます。こんなわたしなど神も愛してくださらないに違いない、というこだわりを捨てて、赦しの神のもとにありのままの自分の姿を差し出すことができますのです。

いやいやではなく、喜んでわたしたちを愛してくださる主に対して、わたしたちの顔を真っ直ぐに神に向けようではありませんか。それが悔い改めるといふことです。